

一般会計決算の状況

熊本地震の発生により、その復旧事業費等で大きく膨れ上がった町の予算。平成28年度の決算額は震災前の平成27年度の約2.5倍となっていました。震災後2年目となる平成29年度の決算額においても、引き続き熊本地震の影響を大きく受けたものとなり、歳入歳出ともに前年度を上回りました。

歳入総額の29.8億8,651万4千円に対し、歳出総額は29.1億2,260万4千円で、歳入歳出差引額は7億6,391万円となっています。歳入歳出額を前年度と比較すると、歳入で10億5,485万5千円(3.7%)の増加、歳出で17億3,728万5千円(6.3%)の増加となっています。

歳入歳出差引額から繰越財源(6億5,917万6千円)を除いた実質収支額は4,037万7千円で、これから平成28年度の実質収支額7億5,037万7千円を差し引いた単年度収支額は、7億4,634万円の赤字となりました。

歳入総額を、町税や使用料など自主的に収入することができると、地方交付税など国・県等の意思決定に基づいて収入される依存財源に分類すると、自主財源が率にして20.2%、依存財源が79.8%となっており、前年度と比較して自主財源が4.9ポイント増加しています。

千円、153.5%)で、減少額が大きいものは、地方交付税(△12億1,309万5千円、△23.7%)、町債(△8億1,460万円、△10.9%)、国庫支出金(△7億2,243万4千円、△9.7%)となっています。

【歳入】(前ページの表1参照)

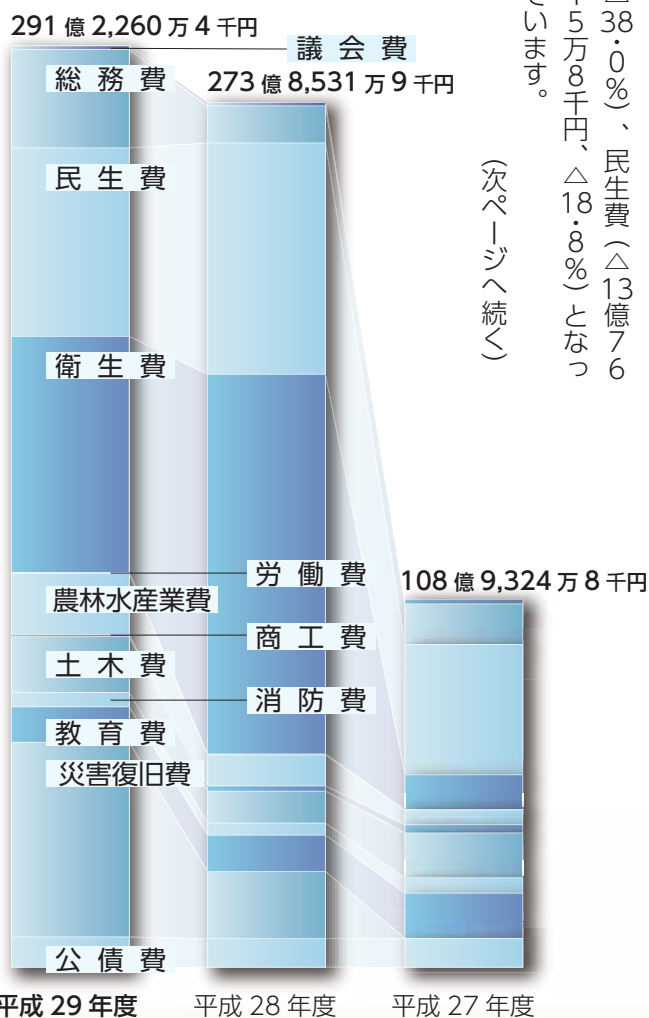
前年度より10億5,485万5千円増加した歳入の内、増加額が大きいものは、県支出金(21億4,136万2千円、59.4%)、繰越金(11億3,299万円、36.1%)、諸収入(6億3,960万9

【歳出】(表2参照)

前年度より17億3,728万5千円増加した歳出を目的別の経費で見ると、増加額が大きいものは、災害復旧費(40億1,922万2千円、188.3%)、総務費(19億1,958万2千円、161.4%)、農林水産業費(9億7,136万5千円、98.3%)、土木費(7億6,351万8千円、76.4%)で、減少額が大きいものは、衛生費(△45億7,351万9千円、

△38.0%)、民生費(△13億7,615万8千円、△18.8%)となっています。(次ページへ続く)

【目的別経費】



【表2】

平成29年度 一般会計目的別歳出の決算額 (単位: 円、%)

項目	決算額	構成比 (%)	対前年度増減率
議会費	1億1,577万5千円	0.4	2.9
総務費	31億893万3千円	10.7	161.4
民生費	59億5,839万4千円	20.5	△18.8
衛生費	74億6,386万6千円	25.6	△38.0
労働費	135万円	0.0	△10.0
農林水産業費	19億5,939万2千円	6.7	98.3
商工費	6,885万5千円	0.2	△56.1
土木費	17億6,297万5千円	6.1	76.4
消防費	4億5,483万9千円	1.6	16.6
教育費	11億1,681万5千円	3.8	△1.9
災害復旧費	61億5,399万2千円	21.1	188.3
公債費	9億5,741万8千円	3.3	6.1
合計	291億2,260万4千円	100.0	6.3

議会費…町議会の運営経費 / 総務費…全体的な管理のための経費 / 民生費…子育て支援、福祉、医療給付などの経費 / 衛生費…疾病予防や健康増進、環境保全などの経費 / 労働費…雇用対策や勤労者福祉などの経費 / 農林水産業費…農業・林業の振興などの経費 / 商工費…商工業の振興、観光事業などの経費 / 土木費…公園・道路整備などの経費 / 消防費…消防業務などの経費 / 教育費…学校教育、生涯学習などの経費 / 災害復旧費…自然災害の復旧工事などの経費 / 公債費…町の借金返済のための経費